

インド金融政策（2022年8月）

大幅利上げ継続も、年内の利上げ打ち止めが視野に入る

2022年8月8日

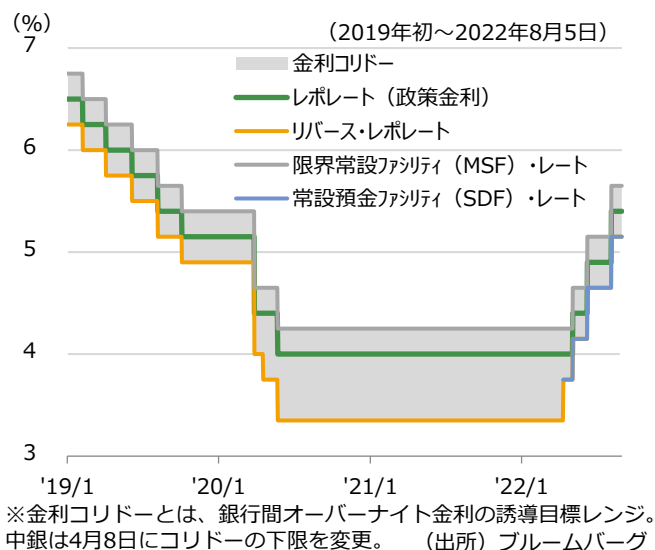
今般利上げサイクルの景気への悪影響は限定的な可能性が高い

8月5日（現地）、インド準備銀行（中央銀行）は政策金利のレポレート¹を5.4%へ0.5%ポイント引き上げました【図表1】。5月の緊急利上げ以来、約3カ月で計1.4%ポイントの大幅利上げとなります。中銀は、2022年通年のCPI（消費者物価指数）の伸び率が目標レンジの「4±2%」を上回ると見込んでおり【図表2】、これでは中銀の責務（3四半期以内にCPI伸び率を目標レンジへ回帰させること）が果たせないこととなります。そのため、インフレ抑制へ断固とした引き締めを行う姿勢を示す必要がありました。

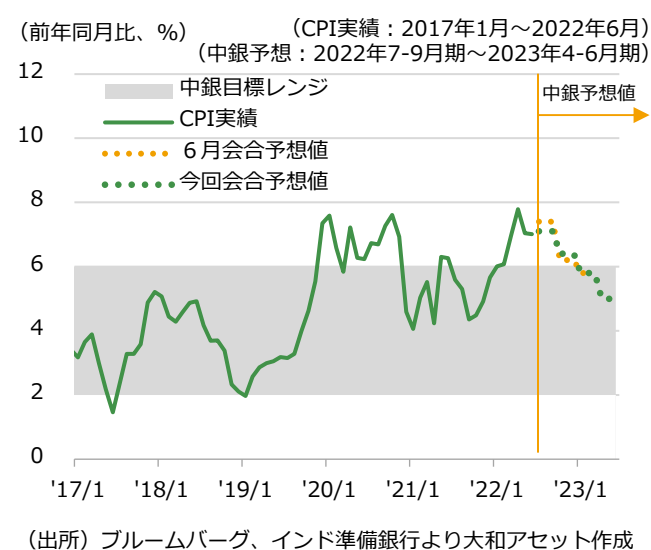
一方で、中銀は今回の声明文で、2023年以降はCPI伸び率が目標レンジに回帰する見通しを打ち出しました【図表2】。そのため、利上げサイクルは年内の残り2回の金融政策決定会合で打ち止めとなる可能性が高まりました。利上げサイクルの終着点に関しては、引き続きインフレ期待を抑制すべく実質金利がプラスになるまで利上げを継続する必要があるとみられ、中銀の2023年1-3月期のインフレ予想値5.8%を上回る6.0%前後まで利上げが続くと考えられます。

大幅利上げに拘わらず、景気見通しは引き続き良好で、中銀は2022/23年度（2022年4月～2023年3月）の実質GDP成長率を+7.2%に据え置きました。世界景気減速の悪影響は懸念されますが、インドでは順調なモンスーン（雨季）のほか、投資需要が強いなど、好景気が利上げ停止まで続く可能性が高いです。景気が腰折れるリスクは引き続き限定的で、株式市場などの金融市場の支えになると考えられます。

図表1 主要政策金利および金利コリドー



図表2 消費者物価指数の伸び率



当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。